

令和6年度
調査研究報告書（第24号）

目次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目標	1
IV	研究の内容	1
V	研究の実際	
1	研究主題の考え方	2
2	育成を目指す児童生徒像の共有	3
3	1単位時間及び単元全体を見通した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業実践	4
4	教科指導におけるICT活用法	10
VI	研究のまとめ	
1	研究の成果	11
2	研究の課題	11
3	参考文献	11
	【研究同人】	
※	資料	12
※	研究所だより	17

I 研究主題・副題

誰一人取り残さない、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりを目指して
～高原町授業スタンダードに基づく授業の深化・充実を通して～

II 主題設定の理由

Society5.0時代を生きる子どもたちには、主体性や豊かな想像力を発揮しながら、変化の激しい予測困難な社会に立ち向かう力が求められる。その資質や能力を育むべく、高原町では令和2年度に「未来を創る心豊かでたくましく高原っ子の育成」を学校教育目標とし、町内小・中学校は、学校間で連携しながら児童生徒の実態、それぞれの校区の実情等をふまえた研究に取り組んできた。

本町小・中学校は、高原小学校、高原中学校を除く4校が複式学級を有する小規模校である。小規模校であるが故に、友達の多様な考え方に触れ、自分の考えや思いと比較、分類しながら自らの考えや思いを更新したり、価値を創出したりするための機会作りに苦慮することが多い。主体的・対話的で深い学びを実現するためには、少人数という不利な状況を克服する手立てが必要となる。また、複式学級を有しない学校においても、「心身の不調から登校できない。」「考え方や行動に特性がある。」といった児童生徒も数名見られ、これらの児童生徒一人一人の可能性を引き出す個別最適な学びを持続的に実現することもいそがれる。

また、文部科学省は目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」と定義している。授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさることが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に繋がると述べており、その重要性が示唆されている。

このような背景をふまえ、高原町教育研究所では、これまでの研究成果や課題、児童生徒の実態等をふまえ、今年度より研究主題を「誰一人取り残さない、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりを目指して」、研究副題を「高原町授業スタンダードに基づく授業の深化・充実を通して」と設定し、「授業における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導法の研究」「当事者意識をもって授業に臨む児童生徒の育成に係る、発達段階に応じた身に付けさせたい資質・能力を明らかにすること」「教科指導におけるICT活用法」について研究を進めることとした。

本研究を推進することは、町及び学校が直面する教育的課題の解決を図るものであり、本町の学校教育目標の達成につながるものと考えている。

III 研究の目標

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりについて、研修や授業実践を通して基本的な考え方や具体的な方法を研究し、提案する。

IV 研究の内容

- 1 研究主題の考え方の共有
- 2 育成を目指す児童生徒像の共有
- 3 1単位時間及び単元全体を見通した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業実践
- 4 教科指導におけるICT活用法

V 研究の実際

1 研究主題の考え方

本研究において育成を目指す児童生徒像を「当事者意識をもって学習に臨む児童生徒」と設定した。ここでの「当事者意識」とは、「自ら学習の目標を立て、学習手段を選択し、学習課題の解決に向かおうとする意識」のことである。このような意識をもった児童生徒を育成するために、研究主題を以下のように定義づけた。

(1) 「誰一人取り残さない」について

「誰一人取り残さない」とは、学級内における児童生徒一人一人の理解状況や能力・適性を踏まえつつ、全員が学習課題や学習の視点を理解し、学習活動に取り組むことができるようにすることである。課題解決方法や表現方法等を選択・調整できる学びを保障することで、多様な子どもたちが誰一人取り残されることのないようにすることが目的である。

(2) 「個別最適な学び」について

令和3年答申において、「個別最適な学び」は教師側の視点である「指導の個別化」と子ども側の視点である「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されている。「指導の個別化」は、一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることであり、その中で児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことなども含んでいる。「学習の個性化」は、個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて学習を深め広げることを意味し、その中で児童生徒自身がどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えていくことなども含んでいる。本研究における「個別最適な学び」の具体的な姿については、以下のように整理した。

個別最適な学び（例）	
指導の個別化〔教師側の視点〕	学習の個性化〔子どもの視点〕
○ ゴールの姿を明確に示す ・ 単元計画、学習計画の明示 ○ 子どもの習熟に合った活動の提示 ・ 習熟に合ったヒントの出し方 ・ 柔軟な表現方法の保障 ・ 習熟別に練習問題数の調整 ・ 習熟別に練習問題の難易度を調整 ○ 学習形態の工夫 ○ タイムマネジメントの工夫 など	○ 習熟に合った練習問題の選択 ・ 取り組む練習問題の数 ・ 取り組む練習問題の難易度の選択 ○ 自分に合った表現方法の選択 ○ 思考・表現のための情報量の選択 ○ 自分に合った思考ツールの選択 ○ 手順や活動方法の確認の仕方の選択 など

(3) 「協働的な学び」について

「協働的な学び」とは、自分以外の児童生徒や大人との教え合い、ディスカッション等のやりとりを通して理解を深める学びのことである。従来の対話的な学びに加え、子ども自身の「必然的な対話」を含んでいる。

(4) 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について

両者は個々に存在するものではなく、個別最適な学びの成果が協働的な学びを促し、また協働的な学びでの成果が個別最適な学びに還元されるという、相互往還の関係にある。今年度の研究においては、協働的な学びを促すための個別最適な学びの在り方を主軸に研究を行った。その際、授業における「課題の選択」「順序の選択」「方法の選択」「学習形態の選択」を研究の視点とした。

2 育成を目指す児童生徒像

本研究において小・中学校9年間を通して育成を目指す児童生徒の姿を「当事者意識をもって学習に臨む児童生徒」と設定した。以下の表は、授業の各段階における児童生徒の具体的な姿を示したものである。

【目指す児童生徒像】

	小学校 1～3年	小学校 4～6年	中学校 1～3年
導入段階	① 友達の発言や教師の提示した問題から本時のめあてが分かる。 ② 教師の発問を聞いて自分なりの疑問をもつことができる。 ③ 自分の生活と結びつけて考えることができる。	① 提示された学習課題を見て、学習に参加することができる。 ② 提示された問題から学習課題を設定することができる。 ③ 提示された問題から学習課題を設定し、解決の見通しをたてることができる。	① 自分で問いを立てることができる。 ② 授業の流れを理解できる。 ③ 問いに対する予想を立てることができる。 ④ 課題解決に向けた方法を考えることができる。
展開	① 指示された課題に取り組むことができる。 ② 試行錯誤したりくり返したりして、課題を解決したり表現したりすることができる。 ③ 試行錯誤したりくり返したりして、課題を解決したり表現したりすることができる。さらに、話し合いに参加することができる。	① 困っていることを伝えることができる。指示された課題に粘り強く取り組むことができる。 ② 既習内容を生かし、自分に合った方法で課題を解決したり表現したりすることができる。 ③ 既習内容を生かし、自分に合った方法で課題を解決したり表現したりすることができる。さらに、理解したことを自分の言葉で表現することができる。	① 既習内容を生かし、自分に合った方法で課題を解決したり表現したりすることができる。 ② トライアンドエラーを繰り返すことができる。 ③ 他人の意見を参考にしたり、質問したりすることができる。 ④ 必要な情報を集めることができる。 ⑤ 自分の調べたことを他人に表現することができる。 ⑥ 新たな問いを見つけることができる(方法に関する問い)。
終末(まとめ)	① 板書を見て本時のまとめを言うことができる。 ② 思ったことや気づいたことを伝えることができる。 ③ 本時の学びを自分の言葉でふり返ることができる。	① 教師や友達の助けを借り、本時の学びを振り返ることができる。 ② 本時の学びを自分の言葉で振り返ることができる。 ③ 本時の学びを自己の言葉で表現し、他人に説明したり実生活と結びつけたりすることができる。	① 学んだことを自分の言葉で振り返ることができる。 ② 自分の調べたことを他人に表現することができる。 ③ 学んだことを実生活と結びつけることができる。 ④ 新たな問いを見つけることができる(内容に関する問い)。

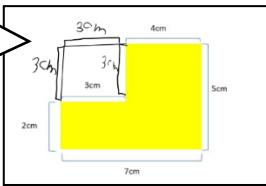
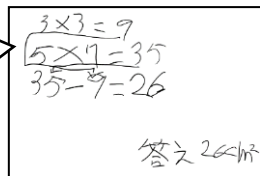
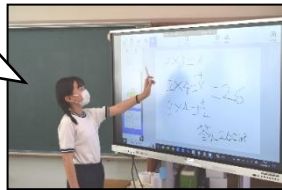
○ 小学校においては、各段階に記されている①～③がそれぞれC評価からA評価の姿に対応している。

○ 中学校においては、各段階で求められる学習の姿をチェック項目として記している。

- 3 1 単位時間及び単元全体を見通した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業実践
 前述の通り、今年度の研究においては協働的な学びを促すための個別最適な学びの在り方を主軸に研究を行った。以下は、研究の視点である「授業における『課題の選択』『順序の選択』『方法の選択』『学習形態の選択』」を踏まえた実践例を示したものである。

(1) 授業実践①

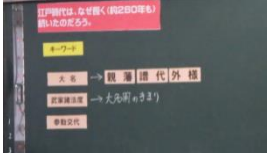
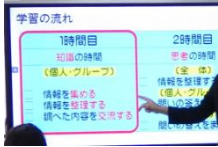
☆ 教師の気づき

単元名	算数科4年「面積」 ○個別最適な学びと協働的な学びの手立て	
本時の目標	L字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積の求め方を長方形や正方形の面積の公式を使って説明することができる。	
個別最適な学びと協働的な学びのポイント	① 考え・意見をもたせるための ICT 活用 ジャストスマイルノート (1枚目)  ジャストスマイルノート (2枚目) 	【展開前段の段階】 ○ ジャストスマイルのノート機能を用いて、児童の端末にL字型図形を送信して自力解決できるようにした。 ☆ 児童が自分なりに補助線を入れて、試行錯誤しながらL字型の面積を求めることができた。
	② 話し合い活動を充実させるための ICT 活用 互いの考えを見比べている様子  ジャストスマイルノートを投影している様子 	【展開後段の段階】 ○ 児童が考えを書き込んだジャストスマイルノートを持ち寄り、互いの考えを見比べた。 ☆ 互いの考えから、より速く求められる方法を自主的に考える姿が見られた。 ○ 児童の作成したジャストスマイルノートを電子黒板に投影し、自分の考えを説明した。 ☆ 全体場で面積の求め方を説明することで、考え方がまとまり、次の類似問題へも生かすことができた。
○成果 ●課題	○ ジャストスマイルのノート機能を活用することで、児童がノートと同じ感覚で必要事項を書き込み、問題に答えることができた。 ○ 日頃から、「速く・簡単に・正確に」の「は・か・せ」の視点をもって考える授業づくりを行ったことで、交流の目的が明確になり、児童主体の交流となった。 ● 導入から展開前段で、児童の思考に沿うような教師の切り返しができなかった。児童の思考の流れをより具体的に想定し、発問を複数用意するなどの工夫が必要である。 ● これまでの「個人→ペア→全体」のような流れも大切にしながら、児童が学び方を自分で選択できるような環境づくりも必要である。	

(2) 授業実践②

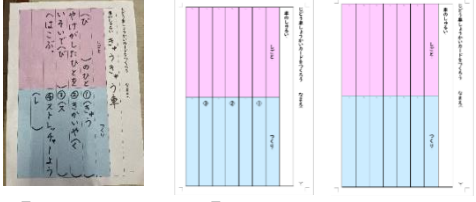
単元名	中学校理科2年「地球をとり巻く大気のようす」 ○個別最適な学びと協働的な学びの手立て	
本時の目標	○ 圧力の大きさは何に関係しているのか理解できる。 ○ 同じ力がはたらいていても、受ける面積によってそのはたらきが異なることを考察できる。	
個別最適な学びと協働的な学びのポイント	① 紙コップの上に乗れるだろうか。(実験) 学習課題を考える。 	【導入の段階】 ○ 生徒に疑問を抱かせて、その課題を解こうとする意欲を高めるために、実験を行った。 ○ 実験より学習課題を生徒自身に考えさせた。 ☆ 今日の学習を自分事として捉え、意欲を持って学習を行うきっかけとなった。学習課題が教師の予想と大きくかけ離れるときは、軌道修正が必要となる。
	② 実験の予想を立てる。 実験方法を考える。 	【展開の段階】 ○ 考えるためのワークシートを、事前にパワーポイントで作成し、個別に記入させた。 ○ ワークシートを用意していたことで、実験の方法や予想について考える事ができた。 ○ 個人、ペアから学習形態を選ばせた。実験道具は、それぞれが個人で行っても良いように2セット用意した。 ☆ 結果としては、2人で実験を行った。しかし、個人思考の時間にしっかりと自分の考えをもたせているので、実験もスムーズに行えた。
	③ 実験を行う。 	
	④ 発表し、まとめをする。 	【終末の段階】 ○ 個人でパワーポイントにまとめた内容を発表させた。 ☆ ペアで行った実験も個々でまとめることにより、個々の理解度も上がり、発表することによってそれぞれの考えを共有することができた。
○成果 ●課題	○ 導入の段階で、生徒が自ら考えてみたいという意識を持たせることで、課題を自分事として捉え、個別最適な学びも協働的な学びもスムーズに行うことができた。 ● 少人数での協働的な学びとなるため、生徒から多様な考えが出てこないときは、教師がヒントを出したり、疑問を投げかけたりする必要が出てくる。	

(3) 授業実践③

単元名	社会科5・6年「武士による政治の安定」 ○個別最適な学びと協働的な学びの手立て		
本時の目標	江戸幕府が大名支配のために行った政策についての情報を集め、整理することができる。		
個別最適な学びと協働的な学びのポイント	① 本時の学習の視点を捉える。		【展開の段階】 ○ 本時の学習におけるキーワードを提示することで、学習内容を焦点化した。 ○ 本時における学習の流れやゴールを可視化することで、見通しをもって学習に臨むことができるようにした。 ☆ 本時の学習内容や学習の流れを把握することができるため、各自が当事者意識をもって学習に臨むことができた。
	② 本時の学習の流れを捉える。		
	③ 課題解決する。		○ 自分たちの学び方に合わせて学習方法、形態、順序、表現方法を選択・自己決定させた。 ☆ 各自の学び方、認知レベルに応じた学習を促すことで、自分のペースで学ぶことが可能になると同時に、質問し合ったり相談し合ったりする姿も見られ、個別最適な学びと協働的な学びの往還を促すことができた。
	④ 学習内容を共有する。 (中間まとめ)		○ 調べ学習の相手とは異なる相手と情報共有をさせた。 ☆ 学び方の異なる相手との共有をさせることで、多様な視点に触れ、新たな気づきや考えの深まりを促すことができた。
	⑤ 学びの確認をする。 (OPPシート)		【終末の段階】 ○ 毎時間の自己の学びを Teams 上にアップしている Excel に記入させている。振り返りは日付け別にいつでも閲覧できるようにしている。 ☆ 調べ学習における気づきを記入する子、自己の進捗状況を記入する子、学習において分かったことと分からなかったことを記入する子など、様々な視点で自己の学びをメタ認知させることができた。 ☆ 互いの記入内容を見ることができるため、自分の学びと友だちの学びを比較したり学び合ったりするなど、協働的な学びを促すことができた。

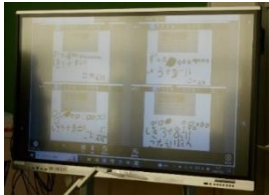
○成果	○ 学習課題を解決するにあたり、順序や方法、形態を子どもたちに選択・決定させることで、個別最適な学びと協働的な学びが何度も往還する場面をつくることができた。
●課題	○ 協働的な学びを促す環境を整えていたことが、結果的に多様な個別最適な学びを促すことに繋がっていた。 ● 1単位時間でできることには限りがある。発達段階や学習内容の難易度から、指導内容の精選が不可欠である。 ● 学びの共有のさせ方にも工夫・改善の余地がある。

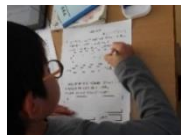
(4) 授業実践④

単元名	第1学年国語科「じどう車ずかんをつくろう」 ○個別最適な学びと協働的な学びの手立て	
本時の目標	紹介したい自動車について情報を集め、「しごと」に合った「つくり」を選ぶことができる。	
個別最適な学びと協働的な学びのポイント	① 図鑑（タブレット）を見て、「つくり」を書く。 【ジャストスマイルのカード機能】  【ワークシートの工夫】  【活動形態の選択】  ② 「しごと」に合う「つくり」を選ぶ。 【ネームプレートの活用】  【児童同士の結びつけ】 	○ タブレットのジャストスマイルのカード機能に図鑑のページの写真を貼りつけて配付し、自由に書き込めるようにした。文と写真を結びつけて考えることができた。 ○ 難易度別でワークシートを3種類用意し、児童が選べるようにした。一番易しいものは、穴埋め式にした。書くことに苦手意識のある児童も、自分に合ったワークシートを選ぶことで、自分の力で取り組むことができていた。 ○ 活動形態を個人かグループか自分で選べるようにした。自分で活動形態を選べることで、進んで学習に参加できるようになり、グループでの話合いの仕方も自然と学ぶことができた。 ○ 友だちとの話合い活動を促すために、移動黒板にニコニコマーク（わかった）、こまりがおマーク（悩んでいる）という2つの部屋を作り、進捗状況に合わせてネームプレートを貼らせた。 ○ 児童の進捗状況やコミュニケーションの得意さなどを考慮して、意図的に児童に声かけをし、児童同士を結びつけた。

○成果	○ 課題解決の方法を自己決定できることで、学習が自分事となり、書くことに苦手意識のある児童も主体的に学習に参加できるようになることがわかった。
●課題	○ 初めは、友達と考えるときに5～6人で考えていた児童たちであったが、人数が多いと話しづらかったり、活動しにくかったりすることに気付いて、2～3人のグループに分かれていた。自分で活動形態を選べることで、進んで学習に参加できるようになり、グループでの話合いの仕方も自然と学ぶことができた。 ○ 悩んでいる児童が自ら「ニコニコマーク」にネームプレートのある児童のところへ行、「どこを見て書いたの。」「どうしてそのつくりを選んだの。」と聞く様子も見られた。児童自身が「自分が何を分かっている、何がわからないのか」というメタ認知能力の素地を育成することにも繋がるのではないかと感じた。 ● 今後は、タブレット端末や図鑑、図鑑をコピーしたものなど複数の教材の中から選択させることも考えていきたい。 ● 学習の途中でワークシートを変更できるよう、柔軟な対応が必要である。 ● なかなか自分から友達と関わることができない児童は、教師の支援がかなり必要である。 教師発信の結びつけだけでなく、意図的なグルーピングも有効であると感じた。

(5) 授業実践⑤

単元名	算数科1年「ものとひとのかず」 ○個別最適な学びと協働的な学びの手立て	
本時の目標	並んでいる様子を図にかき、図を使って人数の求め方を考えたり説明したりしている。絵や図を使って考える良さに気づき、図にかいて考えようとしている。	
個別最適な学びと協働的な学びのポイント	① 本時の問題をとらえる。 	【導入の段階】 ○ 自分事として考えられるように、フライドポテト屋さんに並ぶ児童の写真とイラストを掲示した。 ☆ 問題がどのような場面かが分かりやすくなり、楽しく学習に入ることができた。
	② 本時の問題を全体で話し合う。 	【展開の段階】 ○ 問題文の通り、実際に自分たちで並ぶよう促した。 ☆ 自分たちで考えて並ぶことで、前に何人、後ろに何人かをみんなで考えるきっかけとなり、気付いたことを共有することができた。
	③ 練習問題を解く。 	○ 1人、ペア、複数から学習形態を選ばせた。 ☆ 問題が難しかったため、みんなで解決することを選択して取り組むことができた。 ○ タブレットに考えを書かせた。 ☆ タブレットに図と式をかき、電子黒板で全員の画面が見えるようにすることで、難しいと感じる児童もやり方や間違いに気付くことができた。

	④ 習熟の時間  レベル 1  レベル 3	【終末の段階】 ○ 計算スキル、まんてんスキル、プリントから自分で選んで問題を解かせた。また、分からない時はヒントカードを見たり、友達や先生に聞きに行ったりするようにした。早くできたら、別のレベルの問題に挑戦したり友達に教えに行かせたりした。 ☆ 自分に合ったレベルの問題に主体的に挑戦することができた。
○成果	○ 習熟の段階で自分にあった練習問題を選んで解くようにすることは、児童の主体的な学びにつながった。	
●課題	● 話し合いの場面では、少人数だと意見が出ないことがあるので、先生も一緒に入ってキーワードやヒントを与えるなど自分たちで解決できるようにするための工夫が必要である。また、話し合いをどう進めたらいいかわからない場面があったので、日頃から机を合わせたり集まったりするなど学習習慣を付けるようにしておく必要がある。	

(6) 授業実践⑥

単元名	A Gateway to Japan ○個別最適な学びと協働的な学びの手立て																																																									
本時の目標	「～してしまった」を使って自然な流れの会話文を作る。																																																									
個別最適な学びと協働的な学びのポイント	① レディネスを揃える。	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>意味</th><th>現在形</th><th>過去形</th><th>過去分詞形</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>切る</td><td>cut</td><td>cut</td><td>cut</td></tr><tr><td>2</td><td>置く</td><td>put</td><td>put</td><td>put</td></tr><tr><td>3</td><td>読む</td><td>read</td><td>read</td><td>read</td></tr><tr><td>4</td><td>なる</td><td>become</td><td>became</td><td>become</td></tr><tr><td>5</td><td>来る</td><td>come</td><td>came</td><td>come</td></tr><tr><td>6</td><td>走る</td><td>run</td><td>ran</td><td>run</td></tr><tr><td>7</td><td>帰ってくる</td><td>bring</td><td>brought</td><td>brought</td></tr><tr><td>8</td><td>壊れる</td><td>break</td><td>broke</td><td>broken</td></tr><tr><td>9</td><td>買う</td><td>buy</td><td>bought</td><td>bought</td></tr><tr><td>10</td><td>捕まえる</td><td>catch</td><td>caught</td><td>caught</td></tr></tbody></table>		意味	現在形	過去形	過去分詞形	1	切る	cut	cut	cut	2	置く	put	put	put	3	読む	read	read	read	4	なる	become	became	become	5	来る	come	came	come	6	走る	run	ran	run	7	帰ってくる	bring	brought	brought	8	壊れる	break	broke	broken	9	買う	buy	bought	bought	10	捕まえる	catch	caught	caught	○ 本時は have(has) + 過去分詞を活用できることが目標であるため、過去分詞一覧の表を配付し、本時までにテストを行い、知識の定着を図った。
		意味	現在形	過去形	過去分詞形																																																					
	1	切る	cut	cut	cut																																																					
2	置く	put	put	put																																																						
3	読む	read	read	read																																																						
4	なる	become	became	become																																																						
5	来る	come	came	come																																																						
6	走る	run	ran	run																																																						
7	帰ってくる	bring	brought	brought																																																						
8	壊れる	break	broke	broken																																																						
9	買う	buy	bought	bought																																																						
10	捕まえる	catch	caught	caught																																																						
	② 学習形態を自由化する。	 	☆ 生徒が過去分詞が分からず、学習を止める状況を防ぐことができた。また、忘れてしまった場合でも、すぐにプリントを見て確認できていた。																																																							
			○ 学習形態を教員側で指定せず、自分のペースで学習が進められるようにした。																																																							
			○ 自分たちで学習を進めることで、分からないことを把握し、自主的に質問ができるようにした。																																																							
			☆ 自分で学習形態を選ぶことができるため、ペアやグループで話すことができない状況が起きなくなり、学習が止まることが少なくなった。																																																							
			☆ ペアやグループで教え合うことで疑問が生じ、質問を受ける頻度も上がり、学習意欲を向上することができた。																																																							

○成果	○ 生徒の学習意欲を向上させることができた。
●課題	○ ペアやグループで解決させることで、質問の内容が精選され、より効率的な指導を行うことができた。
	○ ペアで学習の仕方を教えている場面も見られた。
	● 個人で学習している生徒の中には、自分からペアが組めていない生徒がいたため、そのような生徒への支援が必要である。
	● タブレットを用いて学習をしている生徒が、作りたい文を翻訳サイトにかけていたので、作りたい文の作り方が分からない場合の学習の進め方を指導していく必要がある。
	● 評価の方法を精選する必要がある。

4 教科指導等における ICT 活用法

印刷して使用できるプリント教材、ネット上でできるオンライン教材、動画サイト、タイピングソフト、情報モラル教材を一覧にした(資料1)。先生方が授業で児童生徒にタブレットを活用される際や、家庭学習や授業で行うプリントを用意する際等に活用していただき、授業準備に割く時間が短くなり先生方の負担が減少したり、ICT を活用することが気負わずにできるようになったりすることがねらいである。

【活用について】

- ① 『町研究所より』（紫色のフォルダ）→『ネット上の無料で使用できるアプリケーションやサイト集』をクリック。



- ② PDFファイルを開き、青文字下線の部分をクリック。

ネット上の無料で使用できるアプリケーションやサイト集			
令和5年度 高原町研究所（令和6年2月作成）			
1. 印刷して使用するドリル教材			
	名称	URL	内容
小学生	ちびむすドリル（小学生）	https://happyilac.net/syogaku.html	国・社・算・理・英・音・カレンダー
	ドリルの王様	https://happyilac.net/ssk/index.html	国・社・算・理・英・プログラミング
	すきまドリル	https://sukiruma.net/	算・漢・英・プログラミング
	学習プリント.com	https://学習プリント.com/	国・社・算・理・英
	ぶりんと きっず	https://print-ki.net/	小1～3年 国・算
	すたべんドリル	https://startoo.co.jp/utapen/	算・算・理・英・音
	算数星人のWEB問題集	https://sansu-s.com/	算用の算数、難しいです
	むげんプリント	https://mugenprint.com/	
中学生	さんすうプリモン	http://www.essense.co.jp/kanagawa/	
	ぶりんと365	https://www.print-ki.net/	算
	ちびむすドリル（中学生）	https://happyilac.net/highschool.html	国・社・数・理・英
	学習プリント.com		準備中！！
	すたべんドリル	https://startoo.co.jp/juniorhighschool/	国・社・数・英
	無料で使える中学学習プリント	https://chugaku.manabihiroba.net/	国・社・数・理
	中学生の英文法ドリル	https://eigo.manabihiroba.net/	英
	数学苦手の中学生 応援します！	http://homepage1.canvas.ne.jp/ynaka/	数
	数学得意な中学生 応援します！	http://ynaka.html.xdomain.jp/	数
	西宇和数学教室	http://www.ric.hi-ho.ne.jp/nishi-ryo/	数

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

- 「個別最適な学び」を実現するために必要な力を各学年でまとめ、系統表を作成することができた。
- 指導力アップセミナーなどを通して、目指す授業の姿を全職員で共有できた。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」は一体的なものであると分かった。また、小学校低学年においても学習形態の選択などができることが分かった。
- 多くの先生方に、普段の授業を見直すきっかけとなる視点や実践例を示すことができた。
- 教師側の意識の変化の重要性を実感することができた。

2 研究の課題

- 「誰一人取り残さない」の達成度が分からなかった。今後は評価も踏まえて、児童生徒一人一人の見取りも必要ではないか。
- 授業力アップセミナーでの紹介が文献の紹介に終始していた場面もあり、実践につなげにくい部分もあった。
- 小学校低学年においては「考える」ことよりも「知る」ことに重点が置かれるため、「個別最適な学び」や「協働的な学び」における具体的な学習のイメージをもつことが難しかった。

3 参考文献

- ・木村明憲（2023）.『自己調整学習—主体的な学習者を育む方法と実践—』, 明治図書
- ・松若俊介（2020）.『教師のいない授業の作り方』, 明治図書
- ・横田富信（2024）.『子どもの自己調整スキルを磨く』, 東洋館
- ・赤坂慎二（2022）.『個別最適な学び×協働的な学びを実現する学級経営』, 明治図書
- ・宗實直樹（2023）.『社会科「個別最適な学び」授業デザイン 理論編』, 明治図書
- ・木村明憲（2023）.『自己調整方略—主体的な学びを実現する46の手立て』, 明治図書
- ・汐見稔幸（2021）.『教えから学びへ—教育にとって一番大切なこと』, 河出新書
- ・上里・岸本（2024）「中学生の『学び方』に対する一考察」
- ・「令和3年答申参考資料」文科省（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）
- ・『「個別最適な学び」と「共同的な学び」の一体的な充実」名古屋市教育センター

研究同人

事務局職員		研究員	
・所長(教育長)	西田 次良	・主任研究員	堺 友彦(高原中学校教諭)
・課長	田中 博幸	・副主任研究員	明利 尚美(広原小学校教諭)
・教育対策監	安影 亜紀	・研究員	石田 翼(高原中学校教諭)
・指導主事	柏木 友和	・研究員	山之内 靖子(後川内中学校教諭)
・課長補佐	寺師 淳一郎	・研究員	大山 さやか(高原小学校教諭)
・係長	山下 浩樹	・研究員	吉國 葵(高原小学校教諭)
・教育調整監	大牟田 勇	・研究員	岡本 みどり(狭野小学校教諭)
・教育調整監	川見 達也(世話役)	・研究員	森永 亜由美(後川内小学校教諭)

ネット上の無料で使用できるアプリケーションやサイト集			
令和5年度 高原町研究所（令和6年2月作成）			
1. 印刷して使用するドリル教材			
名称	URL	内容	
ちびむすドリル（小学生）	https://happyilac.net/syogaku.html	国・社・算・理・英・音・カレンダー	
ドリルの王様	https://happyilac.net/ssk/index.html	国・社・算・理・英・プログラミング	
すぎまドリル	https://sukiruma.net/	算・漢・英・プログラミング	
学習プリント.com	https://学習プリント.com/	国・社・算・理・英	
ぷりんと きっず	https://print-kids.net/	小1～3年 国・算	
すたべんドリル	https://startoo.co/sutapen/	国・社・算・理・英・音	
算数星人のWEB問題集	https://sansu-seijin.jp/	中学受験用の算数、難しいです	
むげんプリント	https://mugen-print.com/	国・算	
さんすうプリモン	http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/archive/primon/	算	
ぷりんと365	https://www.print365.net/	算	
ちびむすドリル（中学生）	https://happyilac.net/highschool.html	国・社・数・理・英	
学習プリント.com		準備中！！	
すたべんドリル	https://startoo.co/juniorhighschool/	国・社・数・英	
無料で使える中学学習プリント	https://chugaku.manabihiroba.net/	国・社・数・理	
中学生の英文法ドリル	https://eigo.manabihiroba.net/	英	
数学苦手な中学生 応援します！	http://homepage1.canvas.ne.jp/ynaka/	数	
数学得意な中学生 応援します！	http://ynaka.html.xdomain.jp/	数	
西宇和数学教室	http://www.ric.hi-ho.ne.jp/nishi-ryo/	数	
東京ベージャック・ドリル （プリント教材）	https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/study_material/improvement/tokyo_basic_drill/about.html	小（国・社・算・理）、中（国、数、英）	

共通	スタディーズ	https://www.study-x.com/	小学校(算)・中学校(数・社・英)
	hakken.無料教材	https://www.hakken.biz/download.php	小(算・英)、中(数・英)
	ぶりっじプリント	https://mirai-bridges.com/gakushu/	
2. ネットでできるオンライン教材			
	名称	URL	内容
小学生	漢字マスター	https://e-kokoro.org/kanji/	特別支援学級も可、webで作成しwebで解ける
	ウェブで楽しい算数	https://www.dainippon-tocho.co.jp/web_contents/sansu/	大日本図書の算数の教科書を使っていれば使える
	プログル	https://proguru.jp/	プログラミング
中学生	プログル技術	https://middle.proguru.jp/	技(プログラミング)会員登録が必要
共通	新ネットレの学習教室	https://nll.red/	小(漢・社・算・理)、中(漢・社・数・理・英)
	熊本市教育センター デジタル教材	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/dg-materials.htm	小(国・社・算・理・英・音・体・家) 中(数・理・体・技・家)、その他(タイマー等)
	東京ベーション・ドリル (電子版)	https://www.kyoiku-tbd.metro.tokyo.lg.jp/#noback	中1 国・数・英
	Scratch	https://scratch.mit.edu/	プログラミング(有料版も有)
		https://startoo.co/scratchnavi/	Scratchナビ(説明サイト)
	eboard	https://www.eboard.jp/list/	小:算・理・社・漢 中:国・社・数・理・英

	桃太郎電鉄 教育版	https://www.konami.com/games/momotetsu/education/	社（無料ですが申込が必要）
3. 動画サイト			
	名称	URL	内容
小	YAHOO!きっず（学習）	https://kids.yahoo.co.jp/study/	各教科ごとの動画リンク集
学			
校			
中			
学			
校			
共 通	NHK for school	https://www.nhk.or.jp/school/	小学校・中学校・高等学校・特別支援教育
	おうちで学ぼうNHK for school	https://www.nhk.or.jp/school/ouchi/	小学校・中学校（少し） NHK for schoolを家庭でどう活用するか
	京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM	https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/for_children/	小学校・中学校・高等学校・特別支援教育
	ことば食堂へようこそ	https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDgJiyXQ47cf3So9BRSQb0M	文部科学省のYou Tubeチャンネル（国語）
	国立大学法人 京都教育大学	https://www.kyokyo-u.ac.jp/movie/post.html#1	小学校・中学校
	スクールTV	https://school-tv.jp/	小（算理社）、中（国社数理英） 各教科書会社に対応した小中学生の無料学習アプリ（動画）
4. タイピングソフト			
	名称	URL	内容
小	Typing Land タイピングランド	https://typingland.higopage.com/jp.html	小学校 低学年向け（web版、アプリ版）

小学校	プレイグラムタイピング 勇者タイピング	https://typing.playgram.jp/select https://bravetyping.net/	小学校 中高学年向け 小学校中学年以上
中学校	寿司打	https://sushida.net/	中高生向け ゲーム感覚でできる
学生			
その他	e-typing の 散歩するキーボード使い	https://typing.playgram.jp/select https://store.steampowered.com/app/1183740/?l=japanese e	タイピングツール（ゲーム感覚ではない） Steamというアプリをダウンロードする必要がある
5. 情報モラル教材			
	名称	URL	内容
共通	GIGAワークブックみやざき	https://mkkc.mi yazaki-c.ed.jp/miniict-2/	LINEと県教委が連携して作成、ダウンロードして使用
	GIGAワークブック	https://line-mirai.org/ja/events/detail/68	LINEみらい財団 他の都道府県のものもあり
	情報化社会の新たな問題を考えるための教材	https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGz3lmbAOd2f-4u-Mx-BCn13GywDI	文部科学省のYou Tubeチャンネル
	情報モラル学習サイト	https://www.mext.go.jp/moral/#/	文部科学省 小学校・中学校・高等学校
	ネット社会の歩き方	http://www2.iapet.or.jp/net-walk/	動画教材、イラスト教材、シミュレーション教材、冊子教材
	事例で学ぶネットモラル	https://www.hirokyou.co.jp/netmoral/products/netmoral/taikenban.php	授業で使えるアニメ教材（web体験版）
6. その他（リンク集等）			
	名称	URL	内容
小学校	小学生まなび研究会	https://positive-learning.info/	自主学習用のまとめサイト 小4～（漢、算、社、理、英）

教育研究所だより

NO.1

高原町教育研究所 令和6年5月 日

R6年度「高原町教育研究所」スタート！

令和6年度高原町教育研究所研究員委嘱状交付式が、4月15日（月）に各学校の校長先生方の御臨席のもと開催され、高原町教育研究所が本格的にスタートしました。

はじめに、西田 次良所長（教育長）から、各学校の研究員の先生方に委嘱状が交付されました。また、広原小学校の 明利 尚美教諭が代表して、研究員としての抱負を述べました。

高原町教育研究所は、町の教育的課題を解決するための研究機関として、平成12年に設置され、本年度で25年目を迎えます。その間、延べ146名の先生方が研究員として委嘱され、本町の教育の充実に寄与されてきました。



本年度も町内各学校から使命感と情熱に満ち溢る8名の先生方が研究員として委嘱されました。本町の教育的課題の解決に向けて主体的に取り組んでいただけるものと期待しています。

また、本年度もICT支援員として、学教の岸上さん、野邊さん、溝辺さんがサポートしてくださることとなりました。よろしくお願いします。

研究主題について

昨年度の成果と課題、一貫教育つながる部会の今年度の取組内容を踏まえ、令和6年度は研究主題を「誰一人取り残さない、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりを目指して」、副題を「高原町授業スタンダードに基づく授業の深化・充実を通して」と設定して、研究を進めていくこととしました。高原町授業スタンダードにおける「個別最適な学び」「協働的な学び」の基本的な考え方・とらえ方を明らかにし、そこにICTを効果的に使いながら授業実践・公開を行い、学びの質を高め、深い学びに繋げるよう取り組みます。町内各学校の職員の皆様、物心両面からの御支援、どうぞ、よろしくお願いいたします。

各研究員の本年度の所感

	このたび、初めて研究員になりました高原小学校2年目の大山さやかです。高原町授業スタンダードに基づいた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりについて、先生方からたくさんのことを学びながら、日々授業実践を深めていきたいと思っています。 1年間よろしくお願い致します。 高原小学校 教諭 大山さやか
	今回研究員となりました、高原小学校の吉國です。研究所への参加は初めてで、不安もありますが、現在の高原町の子どもたちに合った授業づくりを実現できるように、研究し実践に取り組んでいきたいと思っています。多くのことを吸収し、実践できるような1年間にするために、果敢に挑戦していきます。 高原小学校 教諭 吉國 葵
	広原小学校の明利尚美と申します。高原町教育研究所の研究員として町の研究に携わらせていただくことになり、改めて身の引き締まる思いです。昨年度までの研究で培ったICTを活用した授業作り・学力向上のノウハウを生かしつつ、また新たな視点で勉強させていただければと考えております。どうぞよろしくお願い致します。 広原小学校 教諭 明利 尚美
	初めて研究員になりました岡本みどりです。「個別最適な学び」や「共同的な学び」を活かした授業づくりができるよう勉強したいと思っています。そして、子ども達みんなが「分かった、できた」と感じるような授業がしたいです。また、学んだことを先生方に伝えることができればと思います。よろしくお願い致します。 狭野小学校 教諭 岡本みどり
	本年度、都城市立梅北小学校から参りました森永亜由美と申します。先生方からたくさんのことを学び、本年度の研究主題にある「誰一人取り残さない」ことを目標に精一杯頑張ります。一人ひとりの児童生徒としっかりと向き合い、自信をもって学習に取り組めるような授業づくり、及びその環境をつくっていききたいです。一年間、どうぞよろしくお願い致します。 後川内小学校 教諭 森永 亜由美
	研究員3年目になりました。2年間ICTに関して研究し、今年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりがテーマというところで、2年間の研究の成果もつなげていきます。令和8年の一貫校開校にむけて、「個別最適な学び」「協働的な学び」の環境の素地を作れるよう、日々の研究に励んでいきます。未熟な部分も多々ありますが、1年間よろしくお願い致します。 高原中学校 教諭 堺 友彦
	はじめまして。今年度より、高原中学校へ転勤しました。石田翼です。 本年度より研究所の一員となりました。まだ、右も左も分かっていませんが、高原町内の児童生徒の成長につながるよう教育に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。 高原中学校 教諭 石田 翼
	今年度、研究員2年目となりました。研究主題が新しくなったので、他地区や他県での取り組みに関する情報を収集し、今の高原町の子どもたちの実態に合った取り組みを研究所の他の先生と共に考え、自分自身のスキルも高めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。 後川内中学校 教諭 山之内靖子

教育研究所だより

NO. 2

高原町教育研究所 令和6年 月 日

(作成者：高原中 石田)

1 はじめに

長雨の折、皆様におかれましては、一段とご壮健のこととお慶び申し上げます。さて、研究所だより第2号を執筆します、高原中の石田です。研究所では、今年の研究主題である「誰一人取り残さない、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりを目指して」について話し合いを進めているところです。研究所で話し合う上で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について理解を深め、話し合いを進めています。さまざまな議論を重ねることで研究所員の学びにつながっておりますが、内容が難しく、なかなか方向性が定まらないのも事実です。

そこで、実際に行動を起こしてみなければ、方向性も考えられないのではないかと思います。授業を担当しているクラスで「自由進度学習」を実施してみました。今回は、その実践内容について紹介し、成果や課題をまとめ、研究所だよりとさせていただきます。

2 「自由進度学習」の構成

今回、自分で学ぶ力を付けてほしいという目標のもと、生徒に学習方法を選択させる、指導の個別化に注目して「自由進度学習」を行いました。また、「協働的な学び」の実現に向け、TPCを活用した授業の開発を行いました。

そこで、授業の構成を①単元の学習課題を設定し、課題解決のため計画を立てる【ガイダンス】の時間、②自分の計画に沿って課題を解決していく【追求】の時間、③個人で追求した内容を共有する【まとめ】の時間に分けて設定しました。

ガイダンス

追求

まとめ

①ガイダンス

ガイダンスでは、1学年では単元の学習課題を「世界の人々の生活が異なる理由を衣・食・住の視点から探り、自分の言葉で説明できるようになろう。」2学年では「近畿地方の人口の分布について理解を深め、人口の分布の仕組みについて説明できるようになる

う。」と設定し、学習の手引きに沿って計画を立てさせました。実際に使用した学習の手引きを掲載しておきます。

自由進捗学習 学習の手引き 社会「世界の人々の生活を追究しよう」(標準5時間)			
1. 単元の学習課題 世界の人々の生活が異なる理由を衣・食・住の観点から探り、自分の言葉で説明できるようになる。			
2. 単元の目標 ① 両国を踏み取ることで、それぞれの地域で生活が違っていることを衣・食・住で比較して理解できる。 (知識・技能) ② それぞれの地域で生活が違っている理由を説明することができる。 (思考力・判断力・表現力) ③ 世界の人々の生活について、自ら追究しようとしている。 (主体的に学びに向かう態度)			
3. 学習の流れ			
時間	学習内容	参考資料	コース
			基本 応用
1時間 (一斉)	学習課題①「世界でみられる気候を知り、両国を踏み取るようになる。」	教科書 P48～49	プリント① 自 P30～31
1 ～ 5 時間 (追求)	学習課題②「雪と氷におおわれている地域では人々はどのような生活をしているのだろうか。」	教科書 P36～37	プリント② 自 P24
	学習課題③「冬の気候が低い地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。」	教科書 P38～39	プリント③ 自 P24～25
	学習課題④「日本やイタリアなどの温暖な地域で暮らす人々は、どのような生活をしているのだろうか。」	教科書 P40～41	プリント④ 自 P25
	学習課題⑤「乾燥した地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。」	教科書 P42～43	プリント⑤ 自 P26
	学習課題⑥「一年中気温が高い地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。」	教科書 P44～45	プリント⑥ 自 P26～27
	学習課題⑦「標高の高い地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。」	教科書 P46～47	プリント⑦ 自 P27
	学習課題⑧「宗教は、人々の生活とどのように結びついているのだろうか。」	教科書 P50～P51	プリント⑧ 自 P29
	学習課題⑨～⑫が終わった人	教科書 関連のホームページ	チャレンジプリント
1時間 (一斉)	まとめ⑧「世界の人々の生活が異なる理由を衣・食・住の観点から探り、自分の言葉で説明できるようになる。」 ・まとめ思考ツールの整理 ・考えの共有 ・自分の考えをまとめる		まとめ用 思考ツール
1時間 (一斉)	単元テスト	教科書 P36～51 自主学習 P24～P37	単元テスト

↑「学習の手引き」

②追求

追求の時間では、自分の選んだコースによって、学習課題を解決するために TPC (タブレットパソコン) の検索機能や教科書などを用い、各自学習に取り組みました。また、個人での解決が難しい場合は、教師に質問したり、生徒同士教えあったりするようにしました。話し合いがしやすいように、Teams の投稿機能をチャットとして活用しました。

③まとめ

まとめでは、単元の振り返りプリントを活用し、単元の課題がどれだけ解決に至っているか班でまとめさせました。そうすることで、個人が自分の言葉で単元の内容を振り返る時間を設定することができました。

自由進捗学習 計画表 1年 組 番 名前()					
1. 単元の学習課題 世界の人々の生活が異なる理由を衣・食・住の観点から探り、自分の言葉で説明できるようになる。					
2. チェックタイム ※OK きもえたら、○を入れていきましょう。計2回チェックします。					
学習課題①	○	学習課題②		学習課題③	
学習課題④		学習課題⑤		学習課題⑥	
3. 学習の流れ					
週	月/日	計画	実際の学習	振り返り	先生
1	5/14	学習課題①	学習課題①		
2	5/15	ガイダンス・計画づくり			
3	/				
4	/				
5	/				
6	/				
7	/				
8	/				
9	/				
10	/				
11	単元のまとめ				
12	単元テスト				

↑「計画表」

S

s180004 05/27 9:02 編集済み

No. 15

②と③が分かる人いたら教えてください

👍 1

S

s180045 05/27 9:05
いよ

S

s180004 05/27 9:08
ありがとお-----!

S

s180045 05/27 9:17
いよ

返信

↑「Teams の投稿機能を利用したやりとり」

3 成果と課題

実際に「自由進度学習」を実践してみたの成果と課題を、生徒のアンケート結果から記してきます。

○成果	○課題
・学習が苦手な生徒に対し、支援の時間を十分に取ることができた。学習に苦手意識のある生徒も「丁寧に教えてもらっていつもより分かった」という意見だった。 ・主体的に学習に取り組むことができた、という意見が多かったことから、生徒の主体性も上がった。 ・2年生は単元テストの結果が上がった。	・自分だけでは、理解できているか不安と答えた生徒が多かった。 ・1年生は単元テストの結果が下がった。 ・各時間で学んだことを自分の言葉で、まとめることができなかった。 ・思ったよりも教えたり、教えてもらったりする姿が見られなかった。

4 今後の展望

課題を見ると、自分で学習を進めるためのスキルを身につけていくことが大事だと考えました。今回の授業では、自分だけで理解できないのであれば、他の人や教師に聞けば良いところを、「質問の仕方が分からない」と言う理由で聞けなかった生徒もいました。また、課題に対する意見のまとめ方や、課題解決のために必要な資料の集め方など、自分で学ぶ上で必要なスキルを身につけられていない生徒もいました。自分で学習を進める上で必要なスキルを整理し、小中学校一貫して、子どもを育てる必要性を感じました。

学年の成長段階や教科の特性に応じたスキルを身につけつつ、最終的には自分で学び続けることができる生徒を育てることが大事なのではと、今回の実践を通して感じました。

5 おわりに

今回は、私の実践の紹介と、成果や課題を紹介してもらいました。実践すると課題ばかりでしたが、課題は裏返すと今後取り組むべき内容が見えてきました。トライアンドエラーの繰り返しが大事だと改めて認識させられました。研究所便りだけでは、語り尽くせないことも多々ありますので、何か聞きたいことがあれば、遠慮なくC4th等で聞いてください。お互いに実践や研究を重ねていき、児童生徒の成長が少しでも見ることができたら幸いです。

研究所だより

NO. 3

高原町教育研究所 令和6年11月26日

(作成者：後川内中 山之内)

政府によるGIGAスクール構想の取り組みが始まり（2019年12月）、もうすぐ5年目を迎えようとしています。児童生徒に一人一台端末が導入され、周辺機器も整備され、教育界にめまぐるしい変化が起きました。

さて、皆さんはICTの活用についてどのようにお考えでしょうか？

「ICTはとても便利だ」「児童生徒の学習の幅が広がった」「動画を見ることで理解が深まった」「協働的な学習がスムーズに進められる」などの肯定的な考えがあると同時に、「ICT操作を新しく学ぶのに苦労する」「接続がスムーズできず授業の時間が削られる」などの否定的な意見や、「効果的に使うにはどうしたらよいか分からない」「校務では使用するけれど、児童生徒からのトラブルに関する質問に上手く答えられないので授業で使用するのは不安だ」などの意見も耳にします。



昨年度より、町の研究所では、授業に使えるサイトを一覧表にして、町内の先生方がワンクリックでそのページに飛べるようなファイルを作っています。本年度、高原町に初めて異動してきた先生方もいらっしゃいますので、改めて紹介させていただきます。

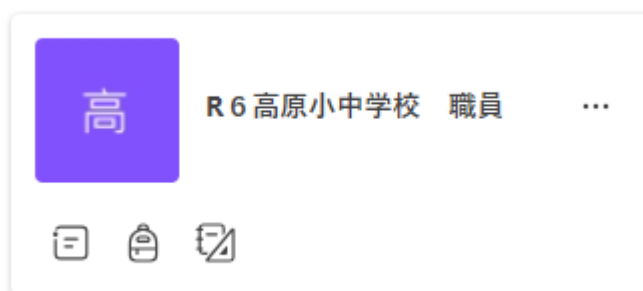
本ファイルを使用することで「ICTを利用したことで仕事がスムーズになった（時間が短縮できた）」「ICTを利用したことで、児童生徒の理解が深くなる一助となった」「課題が早く解き終わってしまう児童生徒に発展的な課題や、新たな問題演習を与えることができた」「指導の幅が広がった」などと先生方が実感できるようになれば幸いです。

また、日頃から先生方が使用されているサイトで、まだ掲載されていないwebサイトがありましたら、紹介していただけると嬉しいです。新しく追加して更新したいと思います。

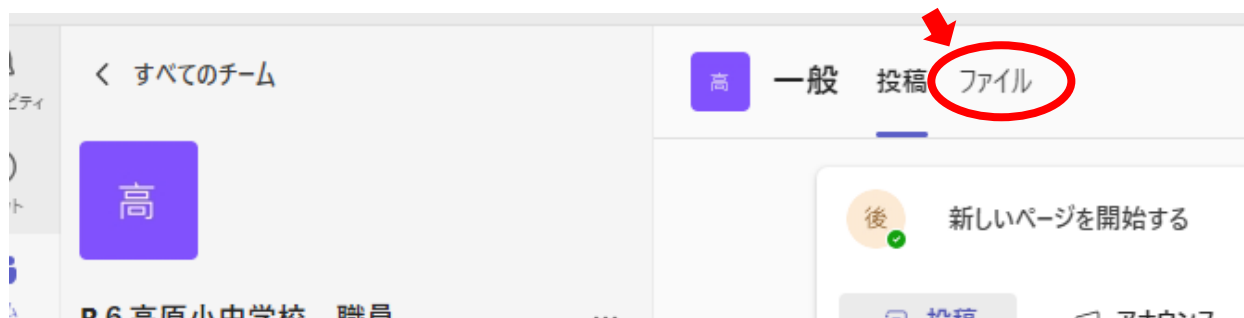
使用の仕方は、裏面を参照してください。



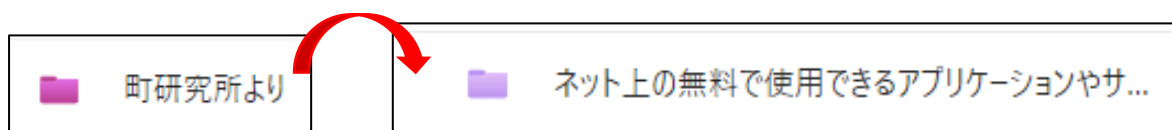
- ① Teams を立ち上げ、『R 6 高原小中学校 職員』ページを開きます。



- ② チーム内のファイルをクリックします。



- ③ 紫の『町研究所より』フォルダの中に、『ネット上の無料で使用できるアプリケーションやサイト集』という名前のフォルダが入っていますのでそちらをクリックします。



- ④ PDF ファイルを開き、青文字下線の部分をクリックすると、そのサイトに飛ぶようになっています。

ネット上の無料で使用できるアプリケーションやサイト集			
令和 5 年度 高原町研究所 (令和 6 年 2 月作成)			
1. 印刷して使用するドリル教材			
	名称	URL	内容
小学生	ちびむすドリル (小学生)	https://happyilac.net/syogaku.html	国・社・算・理・英・音・カレンダー
	ドリルの王様	https://happyilac.net/ssk/index.html	国・社・算・理・英・プログラミング
	すきまドリル	https://sukiruma.net/	算・漢・英・プログラミング
	学習プリント.com	https://学習プリント.com/	・英
	ぷりんと きっず	https://print-kids.net/	・算
	すたべんドリル	https://startoo.co/sutapen/	・英・音
	算数星人のWEB問題集	https://sansu-seijin.jp/	数、難しいです
	むげんプリント	https://mugen-print.com/	国・算
	さんすうプリモン	http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/archive/primon/	算
	ぷりんと 365	https://www.print365.net/	算
中学生	ちびむすドリル (中学生)	https://happyilac.net/highschool.html	国・社・数・理・英
	学習プリント.com	https://学習プリント.com/	準備中！！
	すたべんドリル	https://startoo.co/juniorhighschool/	国・社・数・英
	無料で使える中学学習プリント	https://chugaku.manabihiroba.net/	国・社・数・理
	中学生の英文法ドリル	https://eigo.manabihiroba.net/	英
	数学苦手な中学生 応援します！	http://homepage1.canvas.ne.jp/ynaka/	数
	数学得意な中学生 応援します！	http://ynaka.html.xdomain.jp/	数
	西宇和数学教室	http://www.ric-hi-ho.ne.jp/nishi-tyo/	数

研究所だより

NO.4

高原町教育研究所 令和6年1月吉日

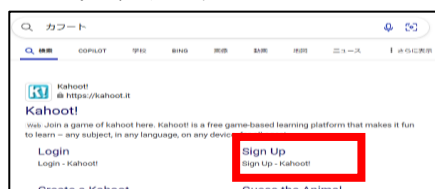
(作成者：高原小学校 吉國)

今年も霧島連山にも雪が降る季節になりました。寒暖の差が昼夜で激しく変わりますので、体調には十分ご自愛ください。

さて、今回は子どもたちも楽しく学べる ICT 活用について紹介します。私のクラスでも朝の空き時間や教科の復習の時間に活用しています。その名も「kahoot! (カフート)」です。〇×ゲームや4択問題が簡単に作成できます。児童たちもゲーム感覚で復習ができ、アクセスも簡単です。先生方がお持ちの「Google アカウント」や「Microsoft」からログインができます。有料版にアップグレードもできますが、無料版でも大いに活用できます。全ての問題を終わると、ベスト3の表彰者のイベントもあり、大いに盛り上がります。イメージとしては、テレビのクイズ番組を教室で行うことのできるような Web アプリです。

kahoot! の活用術について

1. サインアップ

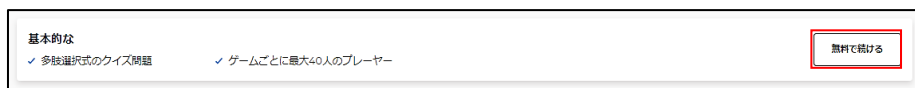


① 「カフート」と検索し、「Sign Up」をクリックします。



② 「Sign Up」→「教師」→「学校」をクリックすると右の画面が出ます。「Microsoftで続行する」または「Googleで続行する」をクリックし、ログインします。

(今回は「Microsoft」で続行)

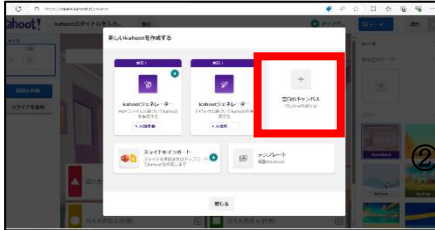


③ ログインし、下にスクロールすると、右の画面が出てきます。「無料で続ける」をクリックして、まずは無料版から始めてみてください。これでサインアップの作業は終了です。

2. 問題作成



- ① 右上の「作成」→「Kahoot!」をクリックします。



- ② 「空白のキャンパス」をクリックし、問題作成開始です。



- ③ 右向きの矢印をクリックすると、問題形式や制限時間、ポイント、回答オプションなどの設定ができます。



- ④ クイズ作成が終わりましたら、右上の「保存」や左上のタイトルを入力から問題の題名を保存し、右の画面の「完了」をクリックしましたら、問題作成は終了です。

3. クイズ大会をしよう



- ① 作成した問題を、子どもたちに出しましょう。「ホーム」をクリックすると、右側に作成したクイズがあります。クイズを選択し、「ライブで主催する」→「開始」をクリックします。



- ② 教師側の画面が右のようになったら、児童に QR コードを読み取らせませす。QR コードにカーソルをかざすと、拡大されて児童が読み取りやすくなります。このあと児童のタブレットでは、「ゲームの PIN」や「ニックネーム」が要求されます。入力し「OK、次へ」をクリックし、クイズ開始です。

パワーポイント等で一つ一つ図形や画像を挿入するより、クイズの型が出来上がっているの、より簡単に作成できます。子どもたちはもちろん、大人でも楽しく使えますので、ぜひ一度学級でご使用ください。

kahoot! 実践の動画を teams の「R6 高原小中学校 職員」に掲載していますので、そちらもぜひご覧ください。